

丹波高原につつまれ 人の交流・連携で築く ぬくもりと躍動のあるまち

京丹波

広報



KYOTAMBA TOWN

謹賀新年

CONTENTS

- 新春ごあいさつ..... 2・3
- わたしの年賀状・亥年生まれの人登場.....4・5
- 平成17年国勢調査の結果まとまる 6
- シリーズ・まちの財政状況[1].....7
- 地域の伝言板「わくわくBOX」 8
- フラッシュ TOWN NEWS 20069~11
- まちの元気人⑩.....12

「京丹波の顔」黒豆・小豆

丹波ブランドの黒豆・小豆。お正月には欠かせない食材は、多くのご家庭の食卓に並んだことでしょう。

飛躍への基礎づくりへ 行財政改革に全力

京丹波町長

松原茂樹

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成十九年の輝かしい新春をお迎えになりましたこと、心からお喜び申し上げます。

顧みますと、昨年は秋篠宮ご夫妻に悠仁様が誕生される明るい話題や、野球のワールドベースボールクラシック、サッカーワールドカップなど世界の舞台における日本選手たちの活躍が多くの人に感動を与えた年でしたが、一方では北朝鮮のミサイル発射や地下核実験、国内ではいじめ・自殺や飲酒運転による死亡事故が大きな社会問題になるなど、国内外ともに、混とんとしたものがありません。今年こそは明るい光がさす、良い年でありますよう願うものです。

京丹波町が発足して一年余りが経過しました。町域のすみやかな一体化や、財政難を克服など諸課題を抱える中での厳しい船出ではございましたが、この間、議会や町民の皆様、関係の皆様方には、町政推進に格別のご理解、ご協力を賜り、深く感謝を申し上げます。

さて、国内の経済情勢は、景気の回復基調が続いており、戦後のわが国を経済大国に押し上げた「いざなぎ景気」を超える景気拡大を示していますが、地方においてはこの景気回復基調を、まだまだ肌で感じられないというのが実情でございます。地方自治体を取り巻く状況も、国の財政再建に向けた三位一体の改革などの影響により、歳入の抑制が求められ、財源の確保も年々厳しさを増す、深刻な状況にあります。

本町といたしましては、この難局を乗り越えるため、足腰の強い、安定した町政運営の働きをもちづくりに向けて新たな自治組織のあり方などを検討する「住民自治組織によるまちづくり検討委員会」を設置するなど、今後のまちづくりの道筋を決める諸施策を着々と推進しています。

さらに、本年はケーブルテレビによる情報基盤の一元化や瑞穂地区の保育所建設に向けた取り組み、水資源対策などを重点的に行っています。また、行政と地域との協力を進めており、また、行政と地域との協

働のまちづくりに向けて新たな自治組織のあり方などを検討する「住民自治組織によるまちづくり検討委員会」を設置するなど、今後のまちづくりの道筋を決める諸施策を着々と推進しています。

さて、国内の経済情勢は、景気の回復基調が続いており、戦後のわが国を経済大国に押し上げた「いざなぎ景気」を超える景気拡大を示していますが、地方においてはこの景気回復基調を、まだまだ肌で感じられないというのが実情でございます。地方自治体を取り巻く状況も、国の財政再建に向けた三位一体の改革などの影響により、歳入の抑制が求められ、財源の確保も年々厳しさを増す、深刻な状況にあります。

本町といたしましては、この難局を乗り越えるため、足腰の強い、安定した町政運営の働きをもちづくりに向けて新たな自治組織のあり方などを検討する「住民自治組織によるまちづくり検討委員会」を設置するなど、今後のまちづくりの道筋を決める諸施策を着々と推進しています。

さて、地方自治体を取り巻く状況は、国の地方分権をめざした権限移譲や交付税削減などにより厳しい状況を迎えています。が、情報基盤整備、保育所統合、水道統合など日常生活に欠かすことができない事業が山積しております。

平成十九年には、町のまちづくり指針となる総合計画の策定が予定されており、行政と町民のみなさまが一体となった取り組みが推進できるよう、議会の担う役割を果たすために議員一人一人が懸命に努力をいたしてまいりますので、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

新年にあたりまして、京丹波町のさらなる躍進と発展を祈念し、併せてみなさまのご健康とご多幸を心からお祈りいたします。年頭のごあいさついたします。



施策として、議会の皆様と協力して進めてまいりたいと存じますので、皆様の一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

今年も、町民の皆様にとりまして、お元気で幸せ多い年でありますことを心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。



- 一月** 旧三町消防団出初め式を開催(八日)▼成人式を開催。新成人百七十九人が出席(八日)▼京都府広報賞広報紙町村の部、映像の部において京丹波町が知事賞を受賞
- 二月** 合併後初の町政懇談会を町内十会場で開催。(七日―二十八日)▼京丹波町合併記念式典を開催(二十五日)
- 三月** 高齢者保健福祉計画を策定
- 四月** 旧三町消防団を統合し、京丹波町消防団が発足(二日)▼介護予防事業や総合相談・支援などを一体的に行う「地域包括支援センター」を町健康管理センターに設置(二日)
- 五月** 町営バスが運行開始(一日)▼旧瑞穂町の姉妹町の福島県双葉町と友好町提携を交わす(十一日)
- 六月** 町税等徴収率向上対策委員会を設置
- 七月** 町バレーボールフェスティバルに町民約百八十人が参加。元日本代表・白井貴子さん、飯田高子さんが来町(二日)
- 八月** たんば夏まつり開催される(五日)▼町消防団の三支団が第十九回京都府消防操法大会小型ポンプ操法の部に出場。丹波支団が五位入賞(八日)▼総合計画審議会が発足(十日)▼瑞穂納涼大会開催される(十七日)▼地域医療対策審議会が発足(二十一日)▼わちふるさと祭り開催される(二十五日)▼障害福祉に関する二計画の策定などを旨とする「地域自立支援協議会」が発足(三十日)
- 九月** 国民保護協議会と防災会議が発足(二十七日)▼全国広報コンクール広報紙町村の部で京丹波町が入賞(二十八日)
- 十月** 町文化祭(和知会場)を開催(二十九日)
- 十一月** 二〇〇六京都丹波ロードレース(船井郡陸協主催)が開催され、約千五百人が参加(三日)▼男女共同参画推進委員会が発足(九日)▼住民自治組織によるまちづくり検討委員会が発足(九日)▼町文化祭(丹波瑞穂会場)を開催(二十五日、二十六日)
- 十二月** 町駅伝競走大会を開催(十日)▼京丹波イルミネーション・夢滝「冬ほたる」開催される(十五日―二十五日)

2006年 主なできごと

亥年生まれの人 登場



新年明けましておめでとうございます。
今年のえとは「亥」。このページでは本町の「亥年」生まれ
1,464人の中から7人の皆さんに登場していただき、
今年の抱負など自由に語っていただきました。



たにぐち ふみや
谷口 史弥さん
(和知小・6年)
平成7年生まれ

春からは中学生。 充実した一年に

ぼくは3年生のときに野球を始め、今はキャプテンとしてがんばっています。昨年から、前からあこがれていたピッチャーを任せられ、試合で勝てるように練習をがんばってきました。

中学校に入っても野球を続け、部活に勉強に、友だちづくりにと、充実した年にしていきたいです。



なかむら あけみ
中村 明美さん
(井尻)
昭和34年生まれ

家族全員、 明るく元気に 過ごせる年に

今日よりも明日という気持ちをもって、何事にも前向きに過ごしていけるような、そんな一年にしていければと思っています。

家で採れた野菜を食べて、家族全員が健康で、明るく元気に過ごせる年になりますように。



ほりばやし あきら
堀林 章さん
(高岡)
昭和22年生まれ

今年一年健康で、 趣味として取り組める ものを見つけていきたい

現在、町の「住民自治組織によるまちづくり検討委員会」に委員として携わっていますが、このことが、少子高齢化社会の中でのこれからの地域づくりを、みんな考えていけるひとつのきっかけになればと考えています。

今年一年、健康に過ごせるよう、自己管理に気をつけるとともに、趣味の一環として何か取り組めるものを見つけていければと思っています。



きのした りさ
木下 里紗さん
(本庄)
昭和58年生まれ

人を大切にする 気持ちを持って いきたいですね

昨年の夏から家業を手伝っています。家族といっしょに仕事することで、今まで以上に家族への感謝や尊敬の気持ちが大きくなりました。少しでも家族の支えになれたらと思っています。

また、人を大切にする気持ちを持っていきたいですね。皆様にとって、すてきな一年でありますように。



いだ ひろかず
猪田 浩和さん
(蒲生)
昭和46年生まれ

仕事に、 仲間づくりに、 充実した年にしたい

何となく一年を過ごしてしまいがちですが、「当たり年」を契機に、一日一日を大切にしていきたいですね。

「40歳までは『仲間づくり』」をモットーに、JC（船井青年会議所）や丹波みらい研究会で活動していますが、そういった中で人づきあいを大切に、仕事もがんばり、充実した一年にしていきたいと思っています。



かわべ てるこ
川邊 瑛子さん
(下栗野)
昭和10年生まれ

何か新しいことに 挑戦できれば いいなあ

Uターンして14年。ようやく地域にもなじめ、田舎の良さも実感している今日のごろです。

わたしは、わち山野草の森育成会に入っていますが、今年も色々な山野草を栽培して出展していきたいですし、当たり年を契機に何か新しいことにも挑戦できればと思っています。



たなか
田中 コノさん
(質美)
大正12年生まれ

暗いニュースが 多い昨今、 明るい年でありますように

自分の健康づくりも兼ねて、何かお役に立てればと、小学校の見守り隊として、下校する子どもたちに声を掛けるのが日課になっています。

暮らしは豊かになりましたが、暗いニュースが多い昨今、明るい年になることを願っています。

人口16,893人

少子高齢化が顕著に

平成17年10月1日現在で、全国一斉に行われた国勢調査の確定値が、このほどまとまりました。(数値は旧三町の合計)

京丹波町の人口は一万六、八九三人で、前回調査(平成十二年)と比べ、一、〇三六八人減少しました(表一)。

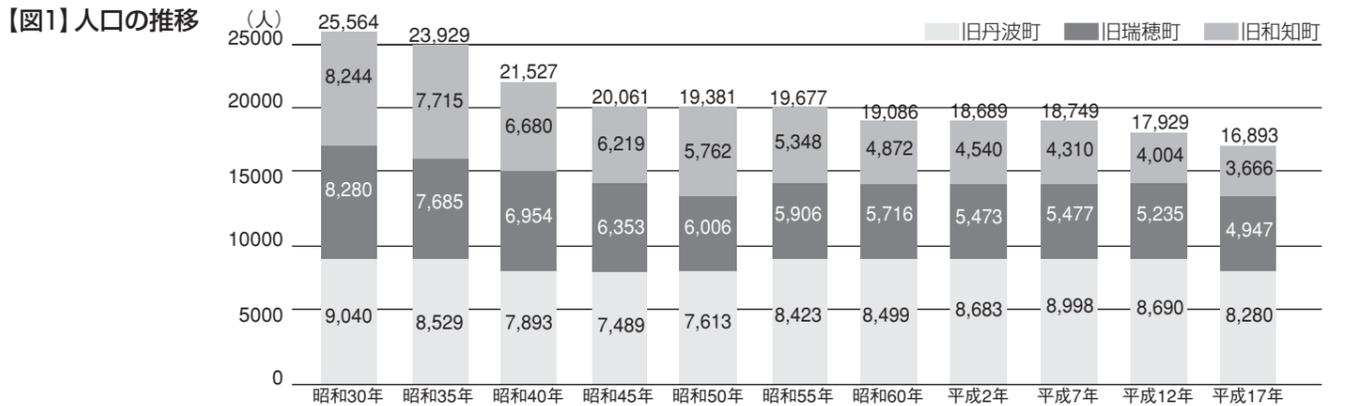
人口推移(図一)をみると、昭和三十年から昭和四十五年まで、高度経済成長期にあわせて、人口減少が加速。その後、昭和四十五年から平成七年までは増減を繰り返しながらのゆるやかな減少傾向にありましたが、平成七年以降、人口減少傾向は再び加速し始めています。

年齢別の構成比(図三)では、年少人口(十五歳未満)は二、一五〇人(全体の二・七%)、生産人口(十五〜六十四歳)は九、三七六八人(同五五・五%)、老年人口(六十五歳以上)は五、三六七三人(三二・八%)という結果。昭和三十年からの推移をみても明らかのように、少子高齢化の現象が浮き彫りになっています。

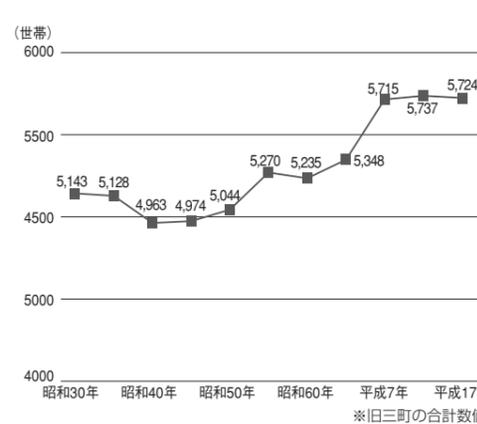
国勢調査は五年に一度実施される大規模な統計調査で、住民登録に関係なく、平成十七年十月一日現在で旧丹波町、旧瑞穂町、旧和知町に実際に住んでいる方を対象にしたもの。また、世帯数は住居を基準としていますが、住民基本台帳とは必ずしも一致しません。

【表1】平成17年国勢調査の結果 ()は前回調査比

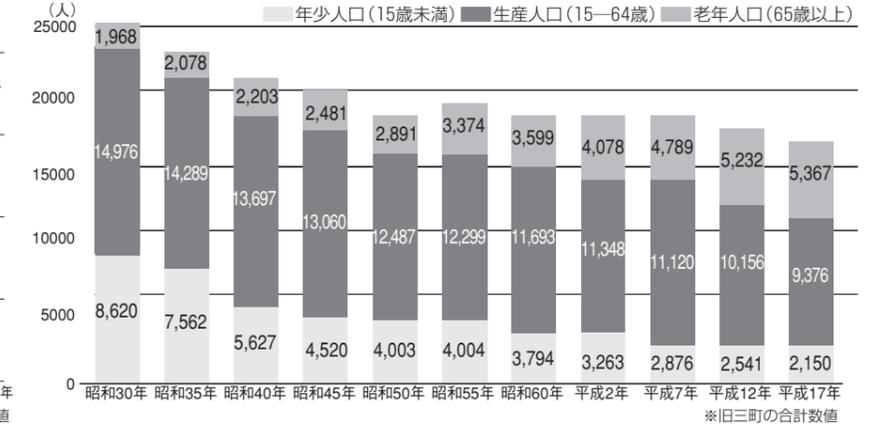
	人口総数	男	女	世帯数	年少人口 (15歳未満)	生産人口 (15-64歳)	老年人口 (65歳以上)
旧丹波町	8,280(△410)	3,928(△195)	4,352(△215)	2,750(32)	1,145(△215)	4,858(△319)	2,277(124)
旧瑞穂町	4,947(△288)	2,351(△149)	2,596(△139)	1,654(19)	593(△120)	2,717(△198)	1,637(30)
旧和知町	3,666(△338)	1,651(△187)	2,015(△151)	1,320(△64)	412(△56)	1,801(△263)	1,453(△19)
京丹波町	16,893(△1,036)	7,930(△531)	8,963(△505)	5,724(△13)	2,150(△391)	9,376(△780)	5,367(135)



【図2】世帯数の推移



【図3】年齢別人口の推移



シリーズ まちの 財政状況 【1】

今、地方自治体の財政を取り巻く状況は、国の財政再建に向けた三位一体の改革などの影響により、歳出(支出)の抑制がさらに求められ、歳入(収入)の確保も年々厳しく深刻な状況です。

こうした中、京丹波町においても既存の事務事業の抜本的な見直しや経常経費の徹底した削減など行財政改革が急務になっています。

このシリーズでは、「なぜ、わがまちの財政状況は厳しいのか」や、「財政健全化に向けて、どのような対策が必要になっていくのか」など、現状と今後の対策などをシリーズでみていきます。

初回は、「まちの台所事情」を分かりやすくお伝えするため、一般家庭の家計に例えてみていきます(表1)。年収500万円の家庭を想定し、京丹波町の平成18年度の予算編成における構成割合に応じて、収入と支出を算定しています。

表1 家計に例えてみると(年収500万円の家庭)

京丹波町の状況				家計に置き換えた場合			
京丹波町の収入		予算額(千円)	構成比	Aさんの収入			
自主財源	町税	1,480,450	25.6%	給料・雑収入	年間	123万円	
	分担金・負担金	92,755			1カ月	10万円	
	使用料・手数料	205,077		貯金の取り崩し	年間	5万円	
	財産収入	231,835			1カ月	1万円	
	諸収入・繰出金など	636,034			親からの援助	年間	303万円
繰入金	93,060	1カ月	25万円				
依存財源	地方交付税	4,874,815	74.4%	ローン借入	年間	69万円	
	国・府支出金	1,012,505			1カ月	6万円	
	その他	598,969		合計	年間	500万円	
	町債	1,481,800			1カ月	42万円	
合計	10,707,300	100.0%	合計	年間	500万円	1カ月	42万円

京丹波町の状況				家計に置き換えた場合			
京丹波町の支出		予算額(千円)	構成比	Aさんの支出			
義務的経費	人件費	1,899,467	17.7%	生活費 (決まっているもの)	食費	89万円	
	扶助費	453,499	4.2%		医療費など	21万円	
	公債費	2,109,402	19.7%	その他	住宅ローン返済金	98万円	
その他の経費	物件費	1,345,295	12.6%		光熱水費・日用品	63万円	
	維持補修費	18,146	0.2%	家財などの修理	1万円		
	補助費等	1,298,148	12.1%	諸会費など	61万円		
	積立金	472,818	4.4%	貯金	22万円		
	繰出金	1,360,713	12.7%	子どもへの仕送りなど	63万円		
投資的経費	その他	38,318	0.4%	雑費	2万円		
	普通建設事業など	1,711,494	16.0%	家の増築や車の購入	80万円		
合計	10,707,300	100.0%	合計	年間	500万円	1カ月	42万円

(注)1カ月分の数値については、端数処理の関係により、必ずしも年間分を12月で除した数とは一致しません。

このようにしてみると、収入については給料(町税など)や雑収入(財産収入・使用料など)などの自主財源が全体の約4分の1程度で、残りの4分の3については、親(国・府)からの援助(地方交付税・国府支出金)や、借金(地方債)などの依存財源でまかなっている状況です。このため、親(国・府)の台所事情が厳しくなると、その影響を大きく受けることになります。

支出については毎月決まって必要となる食費(人件費)や医療費(扶助費)、住宅ローンなどの返済金(公債費)が全体の41.6%。また、光熱水費や日用品代(物件費)、子どもへの仕送り(繰出金)、各種会費(補助費等)なども家計に大きな影響を及ぼしており、毎月限られた収入の中で、厳しいやりくりをしながら生計を立てている状況になっています。

【用語説明】

- 自主財源とは……地方公共団体が自主的に収納できるお金のことをいいます。具体的には町税、使用料、手数料などをいい、町が独自に収納しているものとなります。
- 依存財源とは……国や府から交付される収入をいいます。地方交付税や補助金などがこれにあたります。
- 義務的経費とは……人件費、扶助費、公債費を総称して義務的経費といいます。義務的経費とは、その支払いが義務づけられているもの。すなわち、この経費が高いほど自由に使えるお金が少なくなり財政運営に支障をきたします。

読者の皆さんが
情報発信するコーナー

地域の伝言板 わくわくBOX

このコーナーは、「身近に起こった出来事」や「感動したこと」、「みんなに教えてあげたい・わたしの健康術」、「こんなサークル活動始めました」、「まちづくりについての意見」、「広報紙への感想」、「イラスト・絵画・写真」、「エッセイ・詩・俳句、川柳」など、読者の皆さんの身近な情報発信としてご利用ください。

送り先 〒622-0292 (住所不要)
京丹波町企画情報課広報京丹波「わくわくBOX」係
ファックス/82-2500
Eメール/kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp

広報京丹波(十一月号)の民俗芸能の記事はとも良かったです。ぜひ、京丹波の民俗芸能をそれぞれ見に行きたいと思いました。今後、公演情報などお知らせしていただきたいです。

ところで、最近町営バスの利用状況が載っていますが、私が見る限りわが家の横を通り過ぎる町営バスに乗客が乗っていたためがありません。以前はワゴン車だったので気になりませんでした。最近は大形バスが毎日空で走っており、「もったいないなあ」と感じています。掲載の利用状況ではなく皆さんの利用があるようにみえますが、時間別など精査されたほうがよいのでは?と思います。

(匿名希望)
お便りありがとうございます。民俗芸能の公演情報は町ホームページ掲載も考えていきたいと思っています。バスについては現状保有している車両を有

効活用し運行しています。今後、利用状況を見極めながら、よりよい運行に努めていきます。また、利用状況の掲載のしかたについては、時間別の掲載も今後検討していきたいと考えています。

昨年秋、わが家の畑にサツマイモの花が咲きました。サツマイモの花を見たのは初めてのこと。赤紫色した小さな花が愛らしく、咲くこと自体がとても珍しいので、お便りしました。



サツマイモの花

(出野区在住、匿名希望)
サツマイモはヒルガオ科の植物で、花の形もアサガオやヒルガオとよく似ているそうです。温暖な沖縄地方に行くほど開花しやすく、北に行くほど気温が下り開花しにくいとのこと。その他、いくつかの条件がそろわないと開花せず、この地域で咲くのは珍しいことのようにです。地球環境の変化が、こうしたところにも表れているのかもしれない。

このコーナーは、町営バスの利用実態を皆さんにご理解いただくため、毎月、1カ月間の路線ごとの町営バス利用状況をお知らせしています。

今月の 町営バス利用者

12月の町営バス利用者数

路線名	利用者数(人)		
	一般	生徒学生など	計
丹波和知線	785(+82)	2,632(-918)	3,417(-836)
丹波松山線	115(+19)	1,681(-457)	1,796(-438)
高原下山線	226(+4)	2,200(-528)	2,426(-524)
竹野線	78(-21)	442(+442)	520(+421)
小野鎌谷線	317(-30)	728(-83)	1,045(-113)
猪鼻戸津川線	448(+168)	310(-325)	758(-157)
質美線	894(+197)	1,164(-366)	2,058(-169)
仏主線	335(±0)	592(-142)	927(-142)
長瀬線	481(+31)	576(-152)	1,057(-121)
才原大簾線	188(+25)	1,880(-498)	2,068(-473)
上乙見線	44(-5)	1,536(-392)	1,580(-397)
合計	3,911(+470)	13,741(-3,419)	17,652(-2,949)

一般利用者(生徒学生など除く)数の推移

路線名	9月	10月	11月	12月
丹波和知線	680	935	703	785
丹波松山線	72	109	96	115
高原下山線	237	222	222	226
竹野線	66	83	99	78
小野鎌谷線	292	344	347	317
猪鼻戸津川線	336	278	280	448
質美線	767	800	697	894
仏主線	423	383	335	335
長瀬線	485	494	450	481
才原大簾線	143	209	163	188
上乙見線	49	52	49	44
合計	3,550	3,909	3,441	3,911



フルートの音色を通じて人権への理解深める

京丹波町人権講演会(町人権啓発推進協議会など主催)を十二月一日、山村開発センターみずほで行い、約三百人の町民が参加しました。この日の講師は、難病のクロロリン病を乗り越え、奇跡の社会復帰を果たしたフルート奏者・奥田良子さんと夫の勝彦さんが組む音楽デュオ「エスペランサ」。「心に届く愛の音色」難病をのりこえてをテーマに、フルートとオカリナの弾き語りや自身の闘病から社会復帰に至るまでの体験談を交え、「生きるこの尊厳」や「思いやりの大切さ」などを語りました。参加者らは、美しい音色に耳を傾けながら、人権に対する理解を深めました。



講師・エスペランサの2人の講演(山村開発センターみずほ・大朴)

活性化への光 冬ほたる 約2万人の人出で大盛況

京丹波町の名勝・琴滝を約十万人の発光ダイオード(LED)で飾る「京丹波イルミネーション」琴滝「冬ほたる」が、十一月十五日―二十五日の十日間開催され、町内はもとより、京阪神などから約二万人を超える人出がありました。今年も、LEDが昨年よりも倍増され、光のトンネルなどが新たに作られたほか、期間中、オカリナ演奏やジャズのライブも催されました。

この事業は、町内のまちづくりNPO法人・丹波みらい研究会(岩崎栄喜雄会長)が、通過交通のまちから脱却し一人が集まるまちづくりを目標として、昨年から開いているイベント。今年も青白二色の光が作り出す幻想的な空間が多くの人を魅了しました。



琴滝の特徴を表す光のオブジェが多くの人を魅了した(琴滝・市森)

四十チームが たすきつなぐ

「第一回京丹波町駅伝競走大会」(町体育協会主催)が十二月十日、瑞穂地区のふれあい広場を発着点とする周回コースで行われ、小学生から社会人まで四十チーム、約三百人が参加。ランナーたちは沿道に詰め掛けた家族らの声援を受け、たすきをつなぎ、健脚を競いました。



号砲とともに一斉にスタート(瑞穂地区ふれあい広場・和田)

蒲生野・瑞穂の連合チーム 十一人制全国大会で準優勝

十月十八日―十九日の二日間、福井県越前町で行われた「第七回全日本中学生都道府県十一人制ホッケー選手権大会」(日本ホッケー協会主催)の女子の部において、京都府代表として出場した蒲生野中と瑞穂中の連合チーム(森田江里監督・瑞穂中)が準優勝を果たしました。

同チームは京都府予選で立命館中(京都市)を破り、同大会に出場。二回戦、準決勝を危なげなく勝ち進み、決勝では滋賀県と対戦。強豪相手に白熱した攻防を繰り広げ、〇―〇で前後半が終了。ペナルティストローク戦(PS戦)の末、一―四で惜敗したものの、力の限り戦った選手へ、会場に詰めかけた保護者らから、あたたかい拍手と声援が送られていました。



ゴールを守る選手たち(福井県立ホッケー場・福井県越前町)

京丹波森林組合が発定

十二月二十日、丹波・瑞穂・和知の三森林組合が合併し、京丹波森林組合が発定。同日、和知林業センター（本庄）で職員への辞令交付式が行われました。

式では、谷峰男・代表理事組合長が職員に辞令を交付した後、「関係の皆様へ深いご理解とご協力をいただき、この日を迎えることができた。木材を取り巻く情勢は厳しいが、研さんを積み、職務に励んでほしい」と述べました。

同組合の合併にあたっては、昨年六月に各森林組合の組合長ら十一人で合併推進協議会を設けて話し合いが進められ、十月一日に、和知町森林組合の事務所を本所とし、丹波、瑞穂の両町森林組合の事務所を支所とすることなどを盛り込んだ予備契約書に三組合長が調印。その後、各組合の総代会の承認を経て、合併が正式に決定しました。



谷組合長(左)から辞令を受ける職員(和知林業センター・本庄)

外国青年受け入れ、十二年。友金さんに総務大臣表彰

小中学校などで語学指導を行う外国青年招致事業(JETプログラム)の功労者として、友金一文さん(大朴)がこのほど、総務大臣表彰を受賞されました。

この事業は小中学校などでの外国語教育や国際交流を推進することを目的として、昭和六十一年から全国で行われているもので、友金さんは平成六年からこれまでに、合わせて六人の外国語指導助手に自宅を提供し、身の回りの世話や地域住民との交流を手助けするなど、事業の推進に貢献。その功績が認められての受賞です。おめでとうございます。



総務大臣表彰を受賞した友金一文さん

民俗芸能を学ぶ子どもたち、練習の成果を披露

クラブ活動や授業で地元の民俗芸能「和知人形浄瑠璃」を習っている和知小・中生合同の公演会が十二月九日、道の駅「和」(坂原)の伝統芸能常設館で行われました。

この公演は、両校で指導にあたる和知人形浄瑠璃保存会(大田喜好会長)が、児童・生徒の練習の成果を発表する場として開催。和知小の人形浄瑠璃クラブの児童十三人は「傾城阿波ノ鳴門」十郎兵衛住家の段」を演じ、同保存会員の三味線に合わせて語りと人形遣いを披露し、一方、総合学習の時間に学んできた和知中の生徒九人は、三味線、語り、人形遣いに分かれ、「長老越節義之譽」猪平宅の段」を演じました。



日ごろの練習の成果を精一杯披露する和知中の生徒(道の駅「和」伝統芸能常設館・坂原)

府民総体ゲートボールで京丹波町が優勝

綾部市でこのほど行われた「第二十九回京都府民総体ゲートボール競技」で、京丹波町男子チームが優勝。女子が三位の好成績を収めました。

両チームとも同大会に備えて約二カ月間、強化練習に励んできました。優勝した男子チームの前田実監督(八田)は「チームワークの勝利。みんなで心づくりに、最後まで粘り強く戦ったことが好成績につながった」と話していました。出場した選手は次の皆さんです。(敬称略)

- ▶男子チーム▶前田実(監督)▶木下昭吾▶小倉勝
- ▶徳島均▶坂本盛夫▶田中久男▶江本利次▶吉田真
- ▶女子チーム▶片山まき乃(監督)▶安井久美子▶真野和代▶前田美代▶徳島富美代▶山内末子▶森みさを▶前島三千江▶真野照美



好成績に喜びもひとしお。(町中央公民館前)

瑞穂地区の総合型スポーツクラブが歩こう会で交流

瑞穂地区の四つの総合型地域スポーツクラブでつくる「瑞穂総合型地域スポーツクラブ推進連絡会」(瀬誠会長、質美)が十二月二十二日、「第一回瑞穂歩こう会」を行い、同地区の住民ら約四十人が参加。京都市左京区の「哲学の道」など約五キロを歩き、互いに交流を深めました。

「歩こう会」は旧瑞穂町教育委員会などが毎年この時期に行っていたもので、四十年の歴史ある行事。合併した昨年から同連絡会が「歴史ある行事を自分たちの力で続けていこう」とこれを引き継ぎました。



晩秋の京都を散策しながら交流を深める参加者たち(哲学の道・京都市左京区)

和知難聴者協会が二十周年の記念誌を発行

京丹波町和知難聴者協会(原田和夫会長)がこのほど、設立二十周年の節目にあたって、記念誌「二十年のあゆみ」を発刊。同記念誌は四十五ページで、昭和六十二年三月の設立からこれまでの同協会の歩みや、活動の写真、会員らの思いや考えを綴った寄稿などで構成されています。



和知難聴者協会が発行した20周年記念誌

区内を鮮やかに彩る「ますたにオージーナリエ」

和知地区の升谷区で、同区の民家を電球で飾るイルミネーションイベント「ますたにオージーナリエ」が、十一月一日から約一カ月にわたって開催されました。

このイベントは、高齢化が進む地域を活性化させていこうと区民でつくる実行委員会が昨年からは始めたもの。今年も約三十世帯が家屋や庭先に電飾を行いました。

二十三日には同区の子どもたちがハンドベルの演奏などを行うクリスマスイベントもあり、見物にきた家族連れなどの目を惹かせていました。



ハンドベルで演奏を行う子どもたち(升谷区内)

豪快に、大しめ縄なう

十二月十七日、尾長野区で恒例の京都祇園八坂神社本殿の大しめ縄作りが行われ、区民らが豪快にわらをより合わせ、九本のしめ縄を作り上げました。完成したしめ縄は同月二十四日に八坂神社へ奉納されました。

この行事は、八坂神社の分社が尾長野区にあることから、同区で営まれていた伝行事。昭和四十五年からは区の行事として取り組まれていきます。



区民力を合わせて仕上げた大しめ縄(尾長野区内)

園部・北桑田のライオンズクラブからAEDの寄贈

南丹市と京丹波町の七中学校にこのほど、園部・北桑田の両ライオンズクラブからAED(自動体外式除細動器)が寄贈されました。

AEDは、激しい運動などで突然、心停止に陥った人の心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す装置。本町では、蒲生野瑞穂、和知の三中学校に一台ずつ寄贈いただきました。



AEDの寄贈を受け、喜ぶ教職員たち(瑞穂中学校)

世界の舞台で活躍した 二人のホッケー少女

ホッケージュニアユース日本代表

やす い はる な ふじ い のぞ み
安井陽奈さん(右)・藤井望美さん(左)



「全国の中学生と同じチームでプレーする中で、学ぶことも多く、貴重な経験になった」と話すのは、昨年十一月三十日―十二月九日まで、ホッケージュニアユース日本代表(十五歳以下)としてオーストラリア遠征に参加した蒲生野中三年の安井陽奈さんと藤井望美さん。

二人は蒲生野中ホッケー部をけん引し、昨夏の全日本中学生ホッケー選手権大会で三位に。攻守で活躍した二人は日本代表に選ばれた。

オーストラリア遠征では、首都キャンベラで地元の中高生の大会に参加して十試合を行い、戦績は八勝二敗。初めての海外遠征を振り返って、「身体能力の違いを感じた」と二人は口をそろえるも、藤井さんは「味方へのフォローなど、チームプレーをすすらうえて大切なことを学んだ」と話し、安井さんは「自分の思いだけでプレーするのではなく、試合の流れやチームメイトの動きなどを判断してプレーすることの大切さを学んだ」と話す。

中学校での三年間のホッケーを振り返って、「一年生のときは、ただひたすら基礎練習ばかり。試合にも出られず、つらかったが、それ以上に、三年生になってチームをまとめる立場になったときが一番大変だった」と話す二人。三年生で力を合わせて、うまくチームを引っ張り、近畿大会での優勝や全国大会での三位など輝かしい成績を収めた。その中で藤井さんは「最後まであきらめずに、やり抜くことの大切さ」を、安井さんは「努力することの大切さ」を学んだそうだ。

今後について、「高校で日本一をかみたい」と藤井さん。一方、「もっと努力して、日本代表選手を目指したい」と安井さん。ひたすら白球を追いかけたグラウンドを見つめながら、これからの目標を話す二人の目は、いつそう輝いた。

編集後記

新年明けましておめでとございます。昨年は広報京丹波をご愛読いただき、ありがとうございました。また、取材などお世話になった皆さんに厚くお礼申し上げます。▼わたしの年賀状コーナーに登場していただいた七人の皆さん、すてきな新年の抱負を語っていただきありがとうございました。そこで編集子の新年の抱負をひとつ。今年こそは『誤字脱字“ゼロ”』を目指して、がんばっていきます。今年もカメラを持ってお邪魔しますが、取材にご協力をお願いします。

(Y)

わたしたちの町

人口 17,644(-20)
男 8,372(-16)
女 9,272(-4)
世帯数 6,496(-3)

1月1日現在/()は前月比

【お詫びと訂正】

先月号の広報京丹波(第十四号・十二月十五日発行)十八ページ、「建設業協会青年部が記念植樹」の本文一行目、「丹波町建設業協会」は「京丹波町建設業協会」の誤りでした。お詫びして訂正します。